

研究活動

平和と開発のための 実践的知識の共創

JICA緒方貞子平和開発研究所(略称：JICA緒方研究所)は、2022年3月に『JICA緒方研究所レポート「今日の人間の安全保障」』を創刊しました。人間の安全保障の概念が生まれて約30年、紛争や自然災害など既存の課題が先鋭化するとともに、コロナ禍や気候変動、少子高齢化など新たな問題が顕在化しています。これらの脅威に対応する視座として、今まで以上に人間の安全保障の実践が重要となっています。







JICA緒方研究所は緒方貞子元JICA理事長の理念を継承し、開発途上国が現場で直面する課題について政策志向の研究を行い、国際社会における日本の知的プレゼンスの強化を目指しています。

研究活動の基本方針

1. 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
2. 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
3. 人間の安全保障の実現に貢献する。

重点研究領域

2021年度から新たに加わった「政治・ガバナンス」領域を含め、6つの重点研究領域を定めています。

1		政治・ガバナンス	近年、人々の平穏な生活が破壊され、人生の豊かな可能性を追求する機会にとどまらず命さえもが奪われる事例が増えています。いかなる国に住もうとも、すべての人が人間の安全保障を享受できる国内政治・国際政治の条件や社会の仕組みとは何かを考察します。
2		経済成長と 貧困削減	世界にはいまだ多くの貧困層が存在しています。開発途上国における政策や取り組みが、いかに経済成長と貧困削減に貢献するかを明らかにすべく、インフラ事業の経済社会効果や金融に関する研究などを、介入・非介入の比較分析手法も取り入れて行います。
3		人間開発	すべての人に対する良質な教育、保健サービスへのアクセスの保障とエンパワーメントを視野に、開発途上国における留学のインパクト研究や日本の国際教育協力の歴史分析、新型コロナウイルス感染症とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)*に関する研究などに取り組みます。
4		平和構築と 人道支援	人間の安全保障－保護とエンパワーメントの関係の探求－と、平和構築－平和の促進要因や阻害要因の分析－を、研究の2つの柱としています。人道対応や持続的な開発・平和に従事する多様な主体による、有効な支援のあり方を探ります。
5		地球環境	SDGsへの取り組みや気候変動への対処に向けた研究を実施します。気候変動適応策関連案件の経済的評価手法、社会の持続可能性を評価する指標を用いた持続可能な開発の方策、ASEAN諸国を対象にした環境・気候変動に関する政策提言などに関する研究を行います。
6		開発協力戦略	過去から学ぶための日本の開発協力の歴史研究、外国人との共生社会の実現などの今日的な課題に関する研究、その他の分野横断的な研究などを通じて、世界的に経済・社会構造が変化するなかでの国際協力のあり方や効果的なアプローチを検討します。

※ 「すべての人が、生涯を通じて健康増進・予防・治療・機能回復に関する基礎的なサービスを、必要なときに負担可能な費用で受けられること」を示す概念。



2021年度の刊行物から

2021年度の成果

これらの方針や領域に基づき、2021年度は28の研究プロジェクトを実施し、その成果の発信に努めました。

研究成果の発信

ワーキング・ペーパー12本、ポリシー・ノート2本、フィールド・レポート3本、ナレッジ・レポート2本、開発協力文献レビュー1本を発行しました。

また、先述の『JICA緒方研究所レポート「今日の人間の安全保障」』の創刊号を含む報告書6本、和文書籍4冊、英文書籍6冊が刊行されました。和文学術書籍としては、シリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」の第7巻『開発協力のつくり方—自立と依存の生態史』を発行。日本を事例に開発協力の成り立ちを新たな視点から解き明かそうとしています。

また、研究プロジェクト「日本の産業開発と開発協力の経験に関する研究：翻訳的適応プロセスの分析」の中間研究成果として、英文学術書籍2冊を刊行。そのほか、「革新的技術の適用によるSDGs



達成」、「質の高い成長」、「状況適応型の調停」などをテーマとした英文学術書籍を発刊しています。

日本の途上国開発への貢献を長期的な観点から分析する、一般向け「プロジェクト・ヒストリー」シリーズでは、タイにおける環境協力事業、バングラデシュのIT人材育成、エジプトでの科学技術大学設立協力を取り扱った3冊の和文書籍に加え、シリーズ第23弾の英訳版『Peace and Unity Through Sports: South Sudan's First "National Unity Day" and Its Inaugural Olympic Participation』も刊行しました。

このほか、研究成果は学術誌、学会発表などを通して発表されており、学識者に広く共有されています。


コロナ禍における発信強化

2020年度に引き続き、各種セミナーをオンラインで開催。書籍刊行イベントのほか、コロナ禍における保健分野での日本の取り組み、移住史と多文化理解、共生社会など、今日的なニーズに応じたテーマで37件のセミナーを開催しました。

2022年3月28日、JICA市ヶ谷ビル1階に「緒方貞子メモリアルギャラリー」がオープンした。大学教授や国連難民高等弁務官、JICA理事長としての緒方貞子氏の業績やエピソードの展示のほか、同氏が理念形成と普及に寄与した「人間の安全保障」について、概念やJICAの具体的な取り組みを紹介している



ブランド・アイデンティティ強化を目指し、新たにロゴを策定・導入。故緒方氏のイニシャルである「O」と「S」を組み合わせて、研究活動の核となる「Research Question」の「Q」を表すデザイン

 関連情報
JICA緒方研究所ウェブサイト